

# 卵子保存要望実績の10倍

## がん治療前、推計年2622人

厚労省研究班  
助成提言

不妊になる恐れがあるが  
ん治療の前に、経済的な支  
援があれば将来の妊娠に備  
えて卵子の凍結保存を望む  
女性患者は、年間約260  
0人にとの推計を厚生  
労働省研究班（代表・聖マ  
リアンナ医大の鈴木直教  
授）が26日までにまとめた。  
2015年にかん治療前の  
凍結保存が実施されたのは  
256件で、実績の10倍ほ  
どの潜在的な希望者がいる  
可能性が示された。

卵子や受精卵の凍結保存

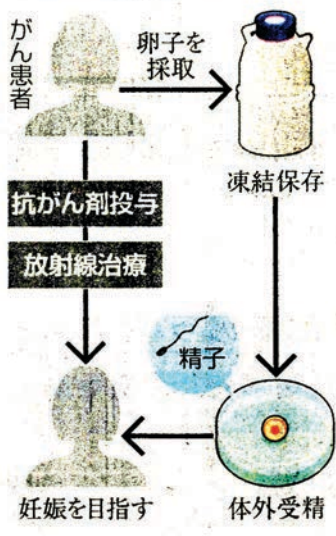
は、初期費用に少なくとも  
20万〜40万円かかる。全  
ての患者の保存に必要な費用  
は約8億8千万円と見込ま  
れ、研究班は公的助成制度  
を設けるよう提言してい  
る。

がん治療では抗がん剤の  
投与や放射線治療の影響で  
妊娠が難しくなる場合があ  
り、あらかじめ卵子や卵巣  
などを採取し凍結保存する  
ことが妊娠を目指す手段と  
なっている。

研究班は、患者の統計か

ら15〜39歳の未婚のがん患  
者は年間約5150人と見  
積もった。全国で実施され  
ている凍結保存の件数や、  
国が不妊治療への助成を始

### がん治療と 卵子凍結保存の流れ



めたことで増えた件数を基  
に計算したところ、経済的  
に支障がなければ保存を希  
望する患者は2622人に  
なると推計した。  
研究班は費用の問題のほ  
か、治療前に卵子の保存に  
関する十分な情報を得ら  
れなかったり、身近に実施  
可能な施設がなかったりし  
た患者もいるとみている。  
卵子を凍結保存する施設は  
日本産科婦人科学会に登録

しているが、香川など14県  
には登録施設がないとい  
う。  
鈴木教授は「治療前に凍  
結保存する件数は徐々に増  
えている。妊娠を希望する  
女性が機会を失うことがな  
いよう、さらに環境を整え  
ることが重要だ」と話して  
いる。